

オールインワン通信

 2021
VOL. 1

飼い主様が頼りにする情報源は動物病院

コロナ禍で、ペットに癒しを求める人が増えています。2020年4月以降にペットを飼い始めた/飼うことを検討した人は9.7%で、10人に1人がペットに興味を持ったこととなります¹⁾。その理由として「癒されるから(42%)」がトップで、「コロナ禍で家にいる割合が増えたから(11.4%)」が6位に入っていました(図1)¹⁾。実際、2020年の犬の飼育頭数は前年比4%増で、減少傾向に歯止めがかかりました²⁾。そこで、新たにペットを飼い始める人の動向を紹介します。

新規飼い主は、情報を収集する傾向にある

2020年4月以降にペットを飼い始めた/飼育を検討した人にペットの育て方・飼い方について尋ねたところ、78.4%が「詳しく/簡単に調べたことがある」と回答しました(図2)¹⁾。ペットに関する有益な情報を得たい—という意識が垣間見えます。飼い主であれば、寄生虫に関する情報も含まれることでしょう。

特に信頼度が高いのは動物病院の獣医師

では、飼い主はどのような情報を信頼するのでしょうか。ネクスガード(NXG)、ネクスガード スペクトラ(NGS)購入のきっかけになった情報を調査すると(n=52)、トップは「動物病院の先生」でした。「動物病院の動物看護師・スタッフ」、「動物病院のポスターやリーフレット」、「動物病院からの通知」も上位に入っていました(図3)³⁾。

別の調査(寄生虫駆除剤の購入プロセス)でも、飼い主は獣医師の情報を最も参考に行っている、という結果でした⁴⁾。

動物病院内のコミュニケーションが 寄生虫ケアなどへの意識づけにつながる

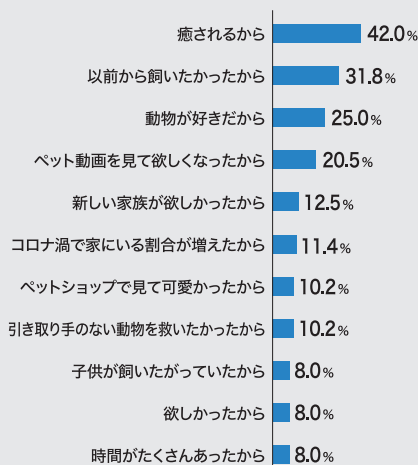
ご紹介した調査から浮かび上がるのは、動物病院で得られる情報の重要性です。コロナ禍の影響で、10%強の飼い主が通院回数を減らしたこともわかっています³⁾。つまり、1回の受診機会がより貴重になっています。

来院の呼びかけはもちろん、受診時における院内での会話・掲示物・小冊子を通じて、年間を通じた寄生虫ケアや個々のペットに合った寄生虫駆除剤の投与方法など、ペットの健康を守る重要性を飼育者に説明し、疾病予防へのモチベーションを高めることも重要になるでしょう。

- 1) クロス・マーケティング社: インターネットリサーチ ペットに関する調査, 2020 <https://www.cross-mc.com/report/life/20201201pets/#> [2021年3月26日アクセス]
- 2) 一般社団法人ジャパンケネルクラブ: 犬種別犬籍登録頭数 <https://www.jkc.or.jp/archives/enrollment> [2021年3月26日アクセス]
- 3) インタージェヘルスケア社: 20年 ペットオーナーサーベイ ネクスガードテレビ広告接触率, 2020
- 4) ベーリンガーインゲルハイム アニマルヘルスジャパン: 寄生虫薬に関するアンケート結果, 2020年12月~2021年1月実施

(図1)¹⁾

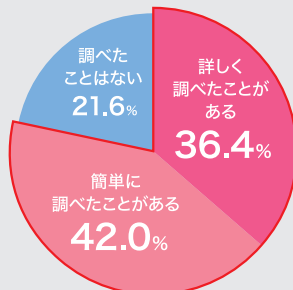
ペットを飼い始めた/
飼育を検討したきっかけ(複数回答)



※今年の4月以降にペットを飼い始めた/飼育を検討した人ベース(n=88)

(図2)¹⁾

ペットの育て方・飼い方について
(単一回答)

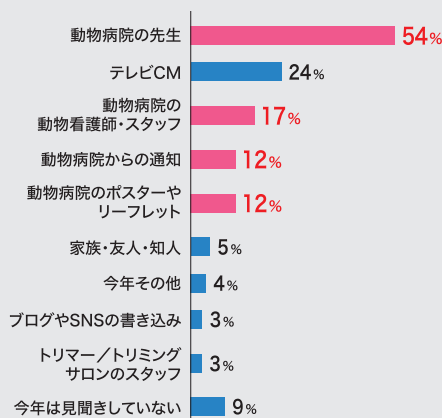


※2020年4月以降にペットを飼い始めた/
飼育を検討した人ベース(n=88)

株式会社クロス・マーケティング
「ペットに関する調査(2020年)」より

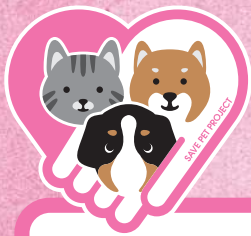
(図3)³⁾

NXG/NGS 購入きっかけとなった情報
(ベース: 各NXG/NGS使用者)



※今年NXG/NGS購入きっかけとなった情報(MA)
■=動物病院で提供する情報

調査主体: ベーリンガーインゲルハイム アニマルヘルスジャパン
調査実施機関: インタージェ



オールインワン通信

 2021
VOL. 1

セーブペットプロジェクト

「あなたのアクションで、救える命がある。」

愛犬・愛猫への寄生虫対策が、保護犬・保護猫のしあわせにつながります。

北海道で唯一、猫の相談窓口を設けている“特定非営利活動法人 猫と人を繋ぐツキネコ北海道”。野良猫の相談を勢いで引き受けたことがきっかけで保護活動を始めた代表理事 吉井美穂子さんにお話を伺いました。

吉井さんは、活動を始めた当初から適正飼育の大切さを伝え続けています。「猫を家の外に出さない、不妊去勢手術をするなど、『適正飼育』の基本の徹底が重要だと思います。地方ではまだ浸透していない印象です」。

ツキネコ北海道では、永年預かり制度というユニークな仕組みでも注目を集めています。「大切なのは、飼い主のライフスタイルに合った猫を迎えること。猫の世話ができなくなったら、いつでも団体に戻せるよう制度を整えました。今、預かりボランティアは200名以上に登録いただいております、猫が過密状態で飼育されることはありません」。

ツキネコ北海道の最終目標は、終生飼養施設の確立。吉井さんは「人馴れしていない猫の居場所が必要です。郊外にある過疎化した自治体と提携して、猫と人間が共生できるような場所づくりがしたいですね」と熱く語りました。

多くの猫を飼育していても、駆虫は不可欠なため、山ほど買ってもすぐなくなってしまいます(苦笑)。セーブペットプロジェクトからの定期的な医療費寄付は非常に助かっています。



吉井さんは、猫の相談を通して高齢者の孤立化などの社会的問題に取り組むことも増えてきたそうです。「今後もそのお手伝いをしていきたいと考えています」。

あなたのアクションで、救える命がある。



SAVE PET PROJECT

「セーブペットプロジェクト」は、動物病院で処方されるベリンガーインゲルハイム アニマルヘルス ジャパンのノミ・マダニ駆除剤、犬・猫用オールインワン®寄生虫駆除剤、フィラリア症予防薬、そして犬用デンタルガム「オーラベツ」の売り上げの一部を、マイクロチップ普及や新しい家族を探す犬や猫たちのための医療費支援などに役立てる動物愛護活動です。寄生虫対策やデンタルケアをすることで、自分のペットだけでなく、行き場をなくした保護犬・保護猫たちにもあなたの愛情を届けることができます。

活動の詳細は動画でご紹介しています。ぜひご覧ください。

*フィラリア症予防、ノミ・マダニ駆除、複数のお腹の虫の対策を1剤で対応



新しい活動紹介ムービーが
できました!

セーブペット

検索

